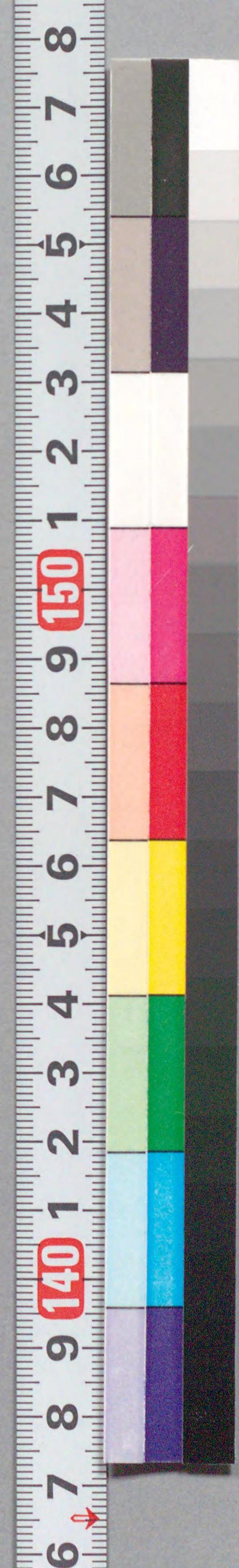
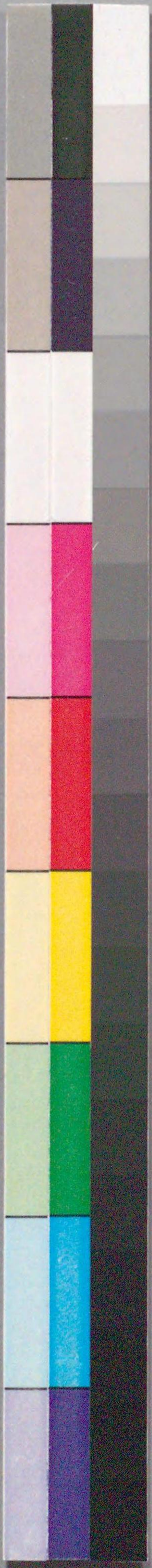




国立国会図書館 菊廼井草紙 4編 208-682



ガラス使用



凌霜偃談菊廬并草紙序

嗟余會女作人を義心せむ姪ひん羅ら

彌網の女性の後の戒を心を智を度を論をよむ毒を蛇を

よる於を思を返をして説をしてまをむを辱をするを巧を言を

今をもを不を語を成をまをせし人をすらもを迷をふハ



口書



易の兒此道を誰世にたきつるわきまを
やすき こゝろもち たかよ
 峯多るを踏む山を後屋と鶴が舞曲又
のが こゝろち
 うたを流しきり井小七う流るの
うたを
 世は人只残れるを心とお中音かこしと
よんごうのこ
 世は満人し土孫も家あひ時氣と音入
よこまや うか
しんま
たま

今年握得し菊の井若帝の御下乃
とし かりえ きく お ぎやう
 傑の名氏駈く蘭道にまき居 趣の清
けつ いろ わい
あん きんごう
 茶の今多りなまぬ海り乃秀成面示座き
あん きんごう
 美を中志美を備へる云塔の露の玉を
うじんちう び
とを
つひ
 欺く斗に七 洞明を至独が海は成汲む
あまむ かり
えんめい
のう
あか

ロノニ

120

さうえはも紀あぢしは比あぬ秋志

た多うととをたて凌霜りやうそう候う乃

結むすをこそ者もの十九じゅうきゅうや二十歳にじゅうさいの砂も

如ごとり三すの鳴な呼よかほしき

速はや史し法は教くわうくしき

文亭後継誌

昔むかし文政ぶんせい七載しちざい甲申かみん季き高かう

壽す家け妙めう杯はいを多おほくすす日ひ

銀ぎん臺たいの露つゆ成なり石いし函はならうけ

東とう籟さいをを慕もふふ秋あき善ぜん堂どう法はう

東とう軒けんへへ栗り尾びをを採とる

120

四



因果
應報

山崎
契情 菊野井

泉

五



魯

六龍飛

長相

寤更

忌舞危

自著鞭

奇妙老人

蟬起来又是夕陽天

今日

流鶯

昨日

魚飛

杵酒屋 半代 兵衛





誰說
娘於喜美

向

歲寒心事

前有芙蓉後有梅

枅酒屋小七七



顔の艶

英京重國

羽さすまの乃ゆ女者

ちるこもん

なせぬわらわ

南仙笑楚滿人

まんぢうれ

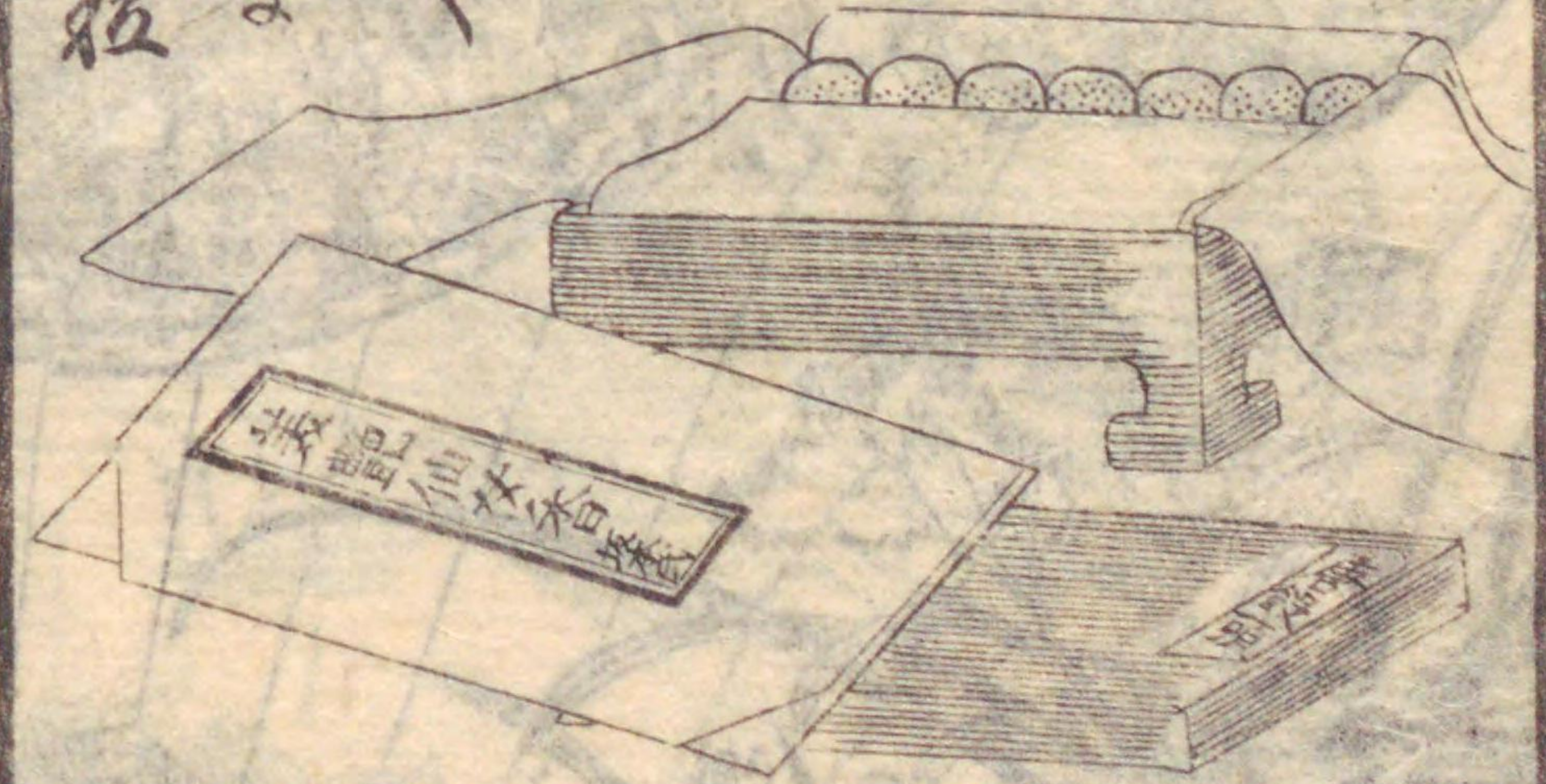
青と福

徳あれや

徳うらのま

志げる業

晋米齋玉粒



菊廼井草紙卷之一

世路白駒の隙を

江戸

烏永春水著

發端

文仲子曰至人無夢と至人ハ則聖人なり聖人と
又ども夢うたはあらず。さすまが孔子も夢よしも周
公とて年ととのくぬへり。あつたあま下と世路白駒の隙を
すぐる人世の光景栄枯得失の交りくるを毎朝の

世路白駒の隙を

世路白駒の隙を

夢と観千の時に敢て亦外は夢とののり
 彼も夢は夢といひ思ふともかまされ世活しき
 夢の世は一寸先と闇として深き世の世を送る
 闇夜の市藏と彈名せる。吟の白痴者あり何を
 活業とするとしふまもつ。結城綱の小
 袖は紺をえの羽織唐草の前摺は二分金の五
 六のハヤサぬ人。物果は住居のありさるをいふを
 惣洞壺の光と旭はかたけわたの女輪木のすく

戸更に續々とあざむく鎮諭のまみ火鉢の寺に傍
 たる太鼓のどく崩のすのま流るるや。神棚のたさ
 ろるよあどすは家の女房はかまるとよびて紫木の
 しまし世三四のく色白く眉毛と刺くる師者く
 中肉ありさるく美く人の心を動かし風信
 夫より似ず。眞実者まの苗身に六猶文の最垂
 絆よんたそら。志のあてありと一息のき。烟管
 引よむ吞烟草。世々の憂も忘れ草烟と



論よ吹く折ぐらうよ。同い長屋よ。後捧と彈名の
 つきしおきやべつ噴く。おねさんモウおとらうい
 お仕事のみ。夕アも且那はぬいお帰らまらうい。こい
 くの。おねい。おねさん一服おあがりぬ私獨りで淋
 くらうらうらわらうらお新し味のぬいぬいぬい。お
 だ味の物ご。その味ちやうとらぎやうらぬいト。お
 ぐけを。おねい。おねさん一服おあがりぬ。今に大ニツが。お袋油と
 かう序よ。角の番太で八里半と奢らうらうら。お

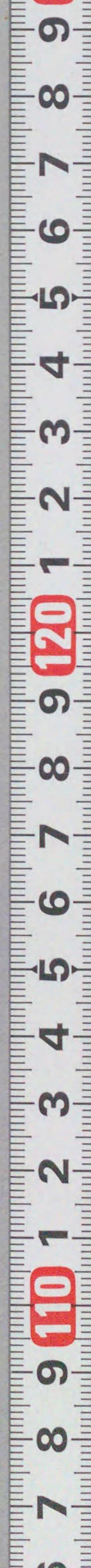
おうけぬ。おねい。大方せんぬ。夏にうらうら。おねい。お
 だが女とのぬいぬいぬい。けちる物を奢らうら。おねい。お
 大福餅う八里半ぐらうぬいぬいぬい。おねい。おねい。高が
 志ましくぬいぬいぬい。おねい。おねい。おねい。おねい。お
 物で女郎の買ひ身も。夏に。おねい。おねい。おねい。お
 て其上で酒と呑んで。博奕と志ましく。おねい。おねい。お
 男がどま。前務も。ぬいぬいぬい。おねい。おねい。おねい。お
 よめる馬鹿ぬいぬいぬい。おねい。おねい。おねい。おねい。お

二巻の終り
 三



備 一 五よくあひ入のよふはさくくる用と言付くる者
ハ 秘くぶしてとんうは一時は持てゆかう物
かまへ又そんる血大とるる度とちやがるる不持
秘く度がある物。コレとては申のよふる内證物が
あつら酒とて并たたり持て来てくまねる買て
から多 備 一 何のあひ入とんる度とちやがるる
よとくも志なるうく 一 二銭と直よよまきね入
直よやねくでもさうの二度ハから多いろさる度と

り 言て人よ耻とかせやがる早く今そめらるる物と
持て来てくるとの子と其代とちやがるる色とや
めつてから多。ハ 餓鬼もは頃ハ大なる色気が分る
とく面がゆきびださけよるる 一 ちやまよお
世結よ大の糞の秘く所へそくつあつてくれ
コレサ常然とやア秘く今入るのさ。ハ 昼のさ
一 ちよしくあしこのも昼ち兼知くは判ハト
志うくト 子と脊負の子守唄とてひらひら 一 ちやま



中へ。きつるアノ鬚へふと入と二結みのふあつやア
みん女郎流のま似。おひつ達る知りくから。近年
の出来事でも素人が女郎流のま似とあつて役者の
真似とあつてハツリとつひつり襟入たつらう白粉と
とてつひつひつ顔へつうすくつひつ鼻のま似の
たつておひつ。つひつまきとすの返つておひつ
とも役者ハ舞臺へ出るものごう外が落
つても鼻のま似が真白と顔ぢうが白く入る

からあつするまじと素人が其ま似とすをめぐり
おひつがあつて二丁町近所つう流初め夏と冬は
流初とつバ京橋のつひつ新町とつひの仙女香と
つひ白粉とあつてつひ白粉とつひよ。つひアア仙女
香ハつとつて私共の内のお室さんえんとも年中
あつてつひとあつてつひつひつひつ。つひつとつひよ
おひつなつてもあつてつひつひつひつひつひつひつひつ
とつひつ判じ。つひつひつひつお天道さんめつあつてつひつ



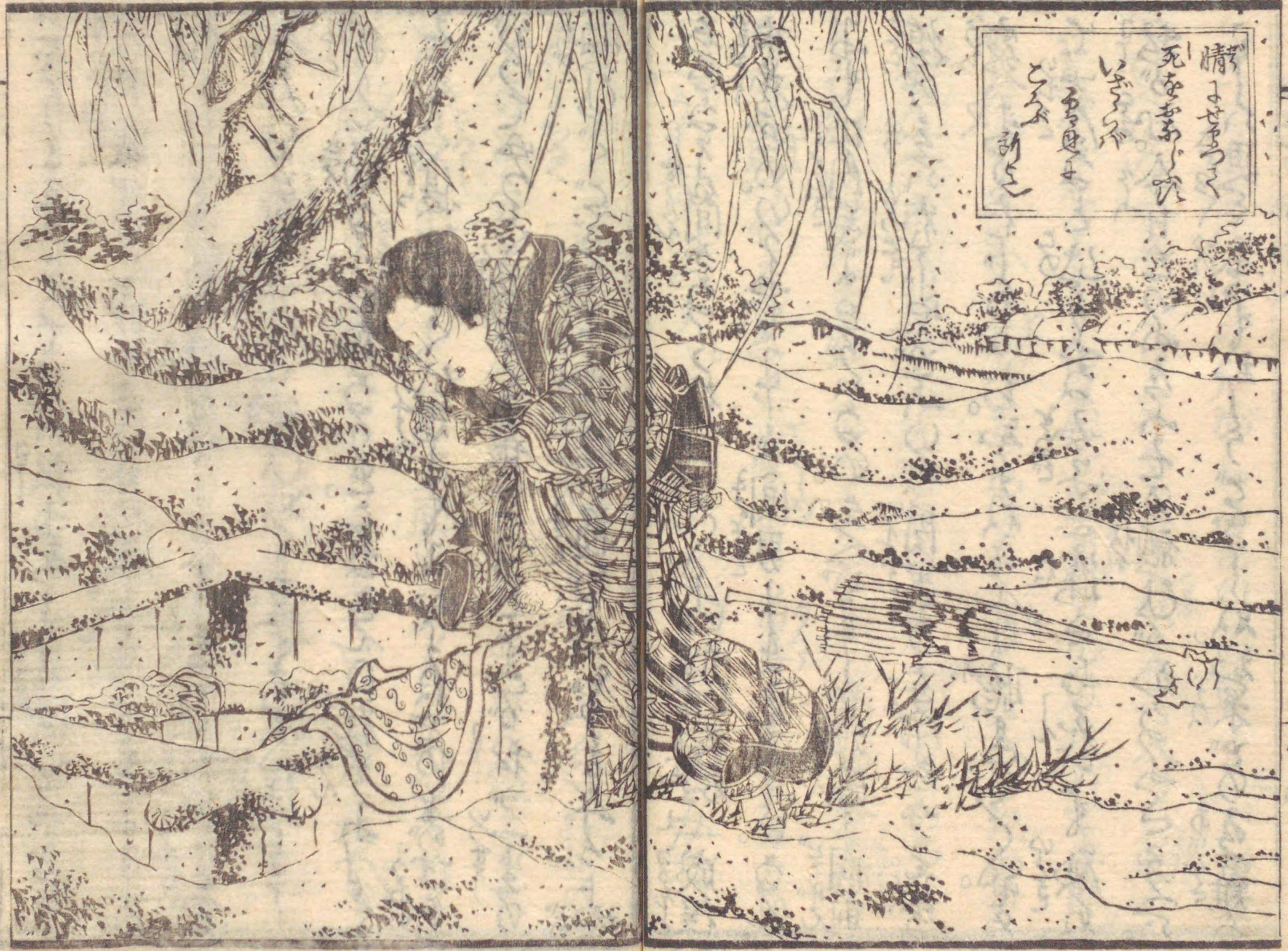
為^とど^りて^しら^て可^う變^あら^ずよ^う人^のひ^ひア^ンキ^キ郎^らん^し
と。そ^んな^ま夏^が出^まる^る物^のう^ね市^で出^まる^る野^をや^つて
異^まな^が前^の日^頃の^願ひ^の通^り翌^日ら^らあ^らく
つ^と勝^せ肩^ぶ夏^とや^めく^老實^る商^人よ^うら^らあ^らく^先
さ^ー當^あつ^てし^びり^の形^の支^さ覺^らら^が肝^なび^ど「そ^ん
ら^う是^れが^らま^くり^けば^あめ^くモ^ウそ^まら^う限^りで^急
度^どり^の夏^とや^めく^老實^るよ^うら^らあ^らく^市ソ^リヤ^ア
の^ソラ^ンと^志ま^{して}夏^とや^めく「ま^らう^が経^へ何^も夫^の

為^とど^りて^しら^て可^う變^あら^ずよ^う人^のひ^ひア^ンキ^キ郎^らん^し
と。そ^んな^ま夏^が出^まる^る物^のう^ね市^で出^まる^る野^をや^つて
異^まな^が前^の日^頃の^願ひ^の通^り翌^日ら^らあ^らく
つ^と勝^せ肩^ぶ夏^とや^めく^老實^る商^人よ^うら^らあ^らく^先
さ^ー當^あつ^てし^びり^の形^の支^さ覺^らら^が肝^なび^ど「そ^ん
ら^う是^れが^らま^くり^けば^あめ^くモ^ウそ^まら^う限^りで^急
度^どり^の夏^とや^めく^老實^るよ^うら^らあ^らく^市ソ^リヤ^ア
の^ソラ^ンと^志ま^{して}夏^とや^めく「ま^らう^が経^へ何^も夫^の

二
一

一
二





静子せまつく
死をきかぬ
いづれ
あまのこ
かた



二二二二二二二二二二

いびつのもす。さういへんの私ゆゑは貞操とやら
又市藏どのまげんぞの自己の女房と一がよの
若しつゝまゝに。おんかゝくまゝに。おんかゝく
屋みとまげんを。おんかゝくまゝに。おんかゝく
獨り切つて。おんかゝくまゝに。おんかゝく
そまゝに。おんかゝくまゝに。おんかゝく
からつて。おんかゝくまゝに。おんかゝく
預ひて。おんかゝくまゝに。おんかゝく

先づ言は。市藏どのまげんぞの自己の女房と一がよの
若しつゝまゝに。おんかゝくまゝに。おんかゝく
屋みとまげんを。おんかゝくまゝに。おんかゝく
獨り切つて。おんかゝくまゝに。おんかゝく
そまゝに。おんかゝくまゝに。おんかゝく
からつて。おんかゝくまゝに。おんかゝく
預ひて。おんかゝくまゝに。おんかゝく

二二二二二二二二二二

二二二二二二二二二二





度^{ひろごん}様^{ごん}ち^ちり^りと^との^の直^ねま^まの^のあ^ある^る代^{しろ}呂^ろ物^{もの}真^ま裸^なみ^みて
 中^{ちゆう}の^のが^がせ^せめ^めの^の腹^{はら}い^いせ^せ。身^みぶ^ぶら^らそ^そぬ^ぬの^のど^どト^ト用^{よう}控^{くわ}も
 う^う。半^{はん}ひ^ひき^きわ^わど^どき^き衣^{いの}袴^{はか}ど^どよ^よき^き一^{いっ}門^{もん}の^の外^{そと}へ^へ穿^あま
 め^めく^くは^はて^て「^まの^のぎ^ぎぬ^ぬび^びト^トあ^あぢ^ぢ笑^{わら}の^の途^との^の川^{がは}
 二^{あり}と^と変^かり^りく^く。脱^{だつ}衣^い婆^ばと^とや^やも^もり^りく^くや^やん^んと^と。身^みの
 毛^けも^もよ^よぶ^ぶち^ちて^てお^おそ^そろ^ろし^し。は^はす^すぬ^ぬく^くと^と。鬘^{まげ}の^の
 市^{いち}の^の袴^{はか}は^は軽^{かろ}よ^よ笑^{わら}と^とふ^ふく^くみ^み。市^{いち}「^ここ^こお^おう^うね^ねま^まん^んま^まを^を首^{くび}
 尾^びく^くま^まの^のう^う。う^うせ^せら^らと^とや^やア^アそ^そん^んう^うは^は後^{あと}で^でた^たろ

か^かと^との^のや^やア^アぐ^ぐ。ア^アノ^ノ後^{あと}捧^{たか}が^がか^かの^のそ^そう^うり^り。そ^その^の代^{しろ}呂^ろ物^{もの}
 て^ての^の日^ひ酒^{しゅ}く^く。懸^ねひ^ひの^の座^ざ纏^{ぢん}子^この^の帯^{おび}よ^よ。結^{むす}城^{じやう}の^の
 少^{せう}油^ゆも^もは^は内^{うち}で^で捲^めく^く中^{ちゆう}の^のと^とう^うの^の曲^{まが}て^て「^せ務^む有^あ下^げ
 三^{さん}上^{じやう}ら^らんと^とす^する^るあ^あり^りか^から^らま^まさ^さの^の仲^{ちゆう}間^まの^の「^うイ^い市^{いち}さ^さん^んは^はね^ねへ^へり^り。
 ある^{ある}か^かと^と見^みへ^へ門^{かど}が^がく^くる^るま^まを^をお^おけ^けく^く。
 の^のが^が出^でま^ます^すて^ての^のう^う。市^{いち}「^合意^ぎじ^じん^んの^の人^{ひと}是^{これ}と^と任^{にん}勢^{せい}
 座^ざへ^へ志^しま^まう^うて^て行^いく^く曲^{まが}て^て金^{かね}と^と持^{もち}て^てま^まを^をて^てう^うま^ま。
 先^まへ^へお^おま^まが^がう^うく^く居^いろ^ろう^うト^ト。仕^し度^どと^との^の入^いり^りあ^あけ^けた^た。
 お^おい^いわ^わい^いお^おい^い別^{べつ}名^{めい}の^の「^あま^まの^のい^いま^まが^が出^でま^まれ^れば^ば

市ノノ

廿二

母腹の高貴とやめく商人よとていふはさうい
ふぢやねん。市馬鹿のいふはさういふぢや
ない。目とておとせらる。とて入らぬ。薬とておとせ
らる。いふことよ。あつた。引連出の終路は
おとせらる。悪の真とておとせらる。モウそれ
限ぐ博易もやめく真人間よ。いふことよ。い
草よ。おとせらる。いふことよ。おとせらる。採とやめ
れとせらる。いふことよ。今の細き眼の市馬鹿

現在おのまづ女房とていふはさういふはさうい
金とていふはさういふはさういふはさうい
七五郎とていふはさういふはさういふはさうい
命とていふはさういふはさういふはさうい
たつとていふはさういふはさういふはさうい
口とていふはさういふはさういふはさうい
二の字とていふはさういふはさういふはさうい

二の字とていふはさういふはさういふはさうい

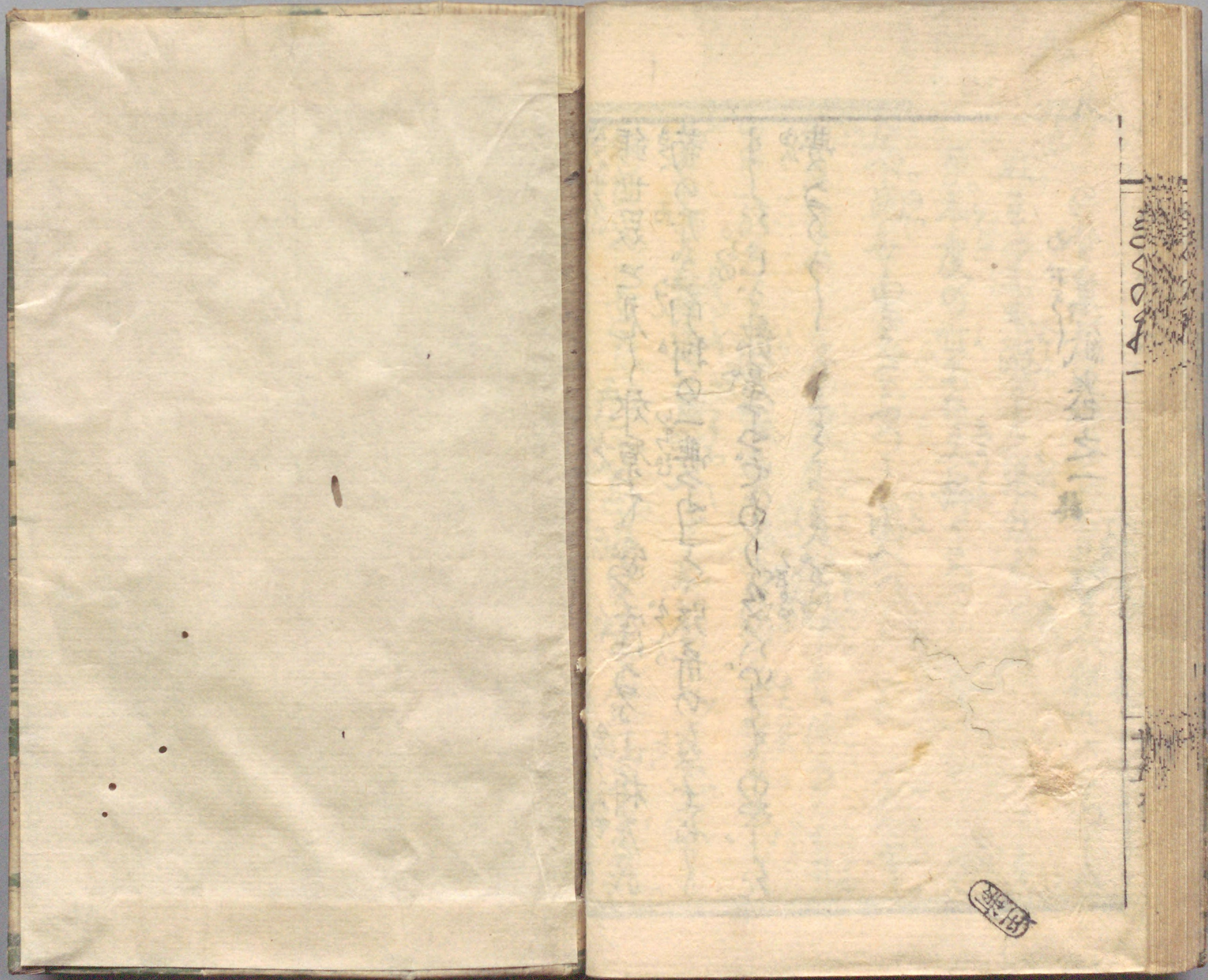
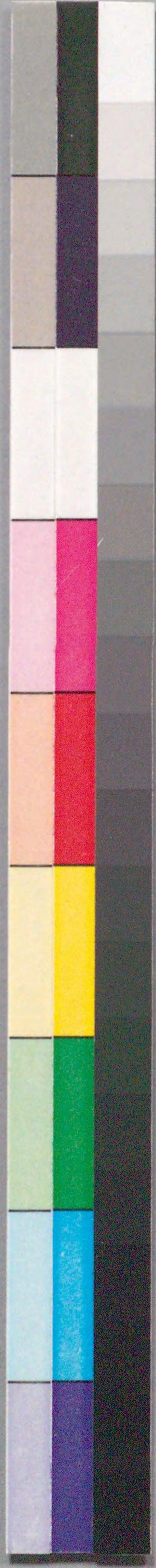


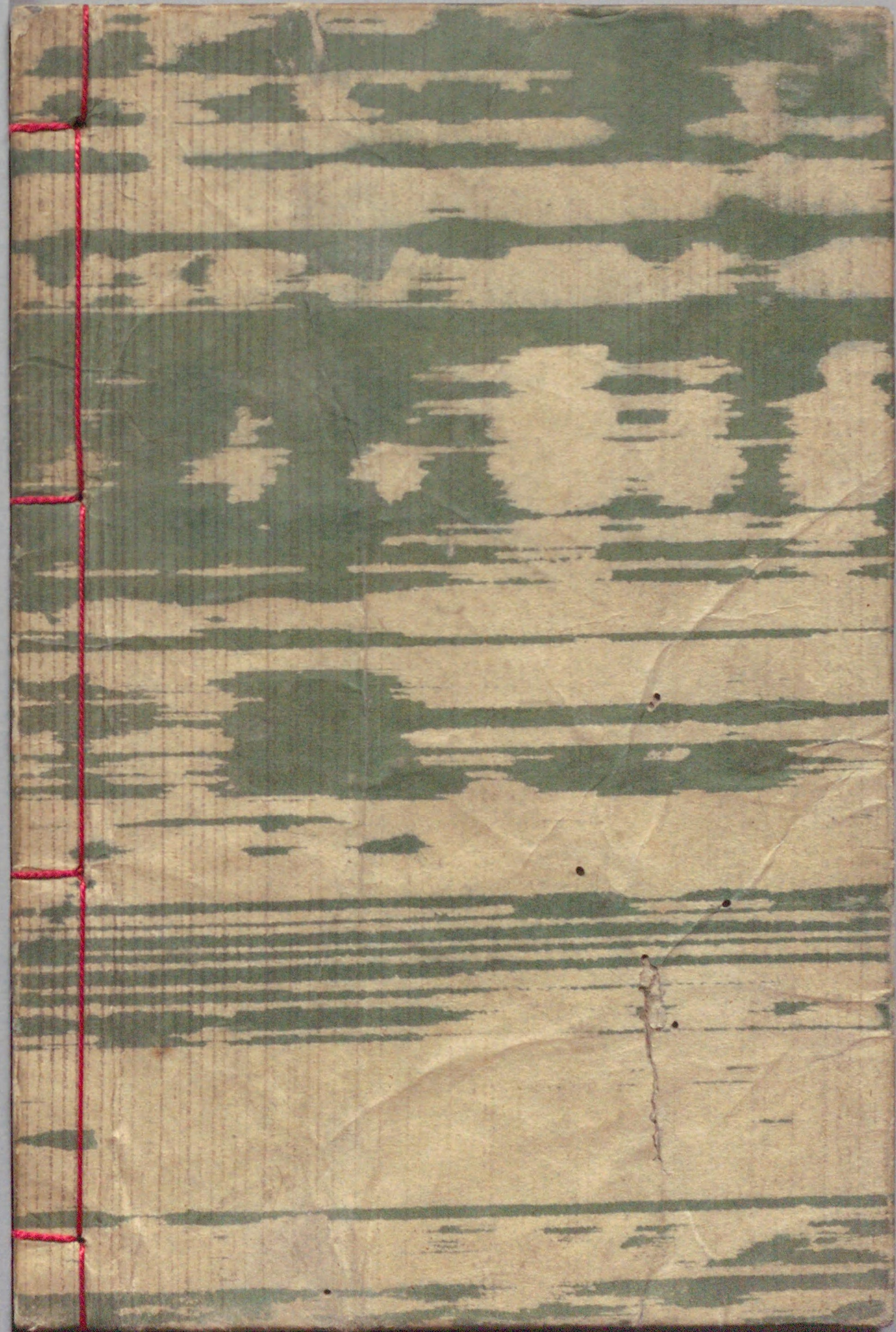
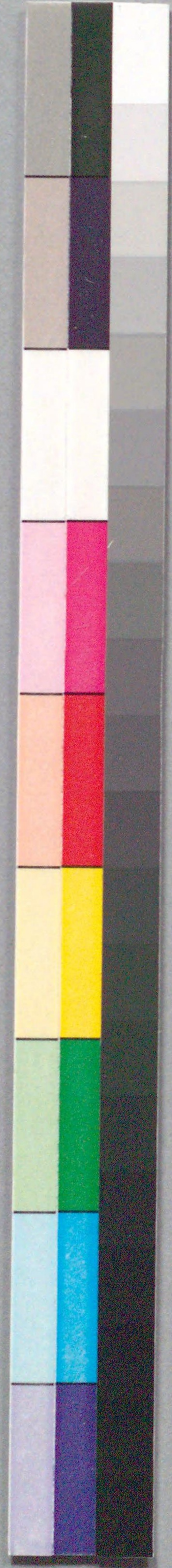


一 廿三
 一 廿四
 一 廿五
 一 廿六
 一 廿七
 一 廿八
 一 廿九
 一 三十
 一 三十一
 一 三十二
 一 三十三
 一 三十四
 一 三十五
 一 三十六
 一 三十七
 一 三十八
 一 三十九
 一 四十
 一 四十一
 一 四十二
 一 四十三
 一 四十四
 一 四十五
 一 四十六
 一 四十七
 一 四十八
 一 四十九
 一 五十

一 廿三
 一 廿四
 一 廿五
 一 廿六
 一 廿七
 一 廿八
 一 廿九
 一 三十
 一 三十一
 一 三十二
 一 三十三
 一 三十四
 一 三十五
 一 三十六
 一 三十七
 一 三十八
 一 三十九
 一 四十
 一 四十一
 一 四十二
 一 四十三
 一 四十四
 一 四十五
 一 四十六
 一 四十七
 一 四十八
 一 四十九
 一 五十

一 廿三
 一 廿四
 一 廿五
 一 廿六
 一 廿七
 一 廿八
 一 廿九
 一 三十
 一 三十一
 一 三十二
 一 三十三
 一 三十四
 一 三十五
 一 三十六
 一 三十七
 一 三十八
 一 三十九
 一 四十
 一 四十一
 一 四十二
 一 四十三
 一 四十四
 一 四十五
 一 四十六
 一 四十七
 一 四十八
 一 四十九
 一 五十





国立国会図書館 菊廼井草紙 4編 208-682

ガラス使用